平成２４年度教育事業

つながる！はじまる！ボランティア体験講座

ボランティア活動や自然体験活動に必要な基礎的知識・技術を学ぶことができ、ボランティアについて深く考える機会ができました。また、普段経験することのない体験を通して、幅広い視野を身に付けることができました。

１　事業実施までの経緯

青少年にボランティア精神を普及し、生涯を通じて様々な場面でボランティアとして活躍できる人材を育成する重要性は従来から指摘されている。本事業では、当機構の法人ボランティア制度に基づき、ボランティア自身が事業の企画、運営計画を立て、実施することによって、事業を運営するために必要な知識と技能を体験から学ぶことをねらいとし､主体的に行動できる人材育成につながるよう企画した。

また、昨年度に引き続き、地域のリーダーとして活躍できる人材を育成する上で、主に地域で活躍する高校生を中心に募集計画を立てて実施することとした。なお、事業後に法人ボランティアとして登録した者には年間を通じて当事業で企画したイベントを実施することで、企画立案から実践と実体験できるように計画した。

２　ね ら い

青少年教育におけるボランティア活動や自然体験活動に必要な基礎的知識・技術等を習得するための研修を行い、生涯を通じて地域や様々な場面において主体的に行動できる態度を育成する。

３　主　　催　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立大洲青少年交流の家

４　後　　援　愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会

５　期　　日　つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. １
平成２４年６月９日（土）～１０日（日）【１泊２日】

つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. ２
平成２４年７月２１日（土）～２２日（日）【１泊２日】

青少年交流の家フェスティバル
平成２４年１０月２７日（土）

６　場　　所　国立大洲青少年交流の家

７　参加人数　つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. １　１４名
つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. ２　２７名

８　講　　師　つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. １
西坂　淳 氏（愛媛県教育委員会　生涯学習課　青少年教育係　社会教育主事）
大洲地区広域消防事務組合消防署員
浅野　長武 氏（喜久家プロジェクト 代表）

つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. ２
前田　眞 氏（ＮＰＯ法人まちづくり支援えひめ　代表理事）
稲葉　靖司 氏（愛媛県ヤングボランティアセンター）
二上　雅史 氏（まちづくりＮＰＯ　イケメン連　事務局）

つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. １および Vol. ２
国立大洲青少年交流の家企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

９　日　程・内　容

つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol. １

(1)　日　　程

□６月９日（土）

10:00	10:15	10:30	12:00	13:00	16:30	17:00	19:00	20:30	22:00
受付	開講式 アイス ブレイク	ボランティア 体験講座① （知識編）	昼食	ボランティア 安全管理（技術編） （救命救急法）	オリエン テーション	つどい 夕食	ボランティア 体験講座② （仲間編）	入浴 自由交流	就寝

□６月１０日（日）

6:30	9:00	10:30	13:30	15:00	15:30
朝　食 つどい 起　床	グループワーク （活用編）	野外炊飯体験 ピザ作り （体験編）	ふりかえり （気づき編）	閉講式	解散

(2)　活動内容

【概　要】

国立大洲青少年交流の家では、高校生・大学生・専門学校生・社会人等の青年を対象にボランティア養成事業を行っている。今年度も「つながる！はじまる！ボランティア体験講座」を独立行政法人国立青少年教育振興機構における法人ボランティア養成共通カリキュラムに基づく内容で実施した。

開講式の後、参加者同士の緊張をほぐし交流できるようにとアイスブレイクを行った。その後、講師によるボランティアの知識を学ぶ講座を行い、お互いのボランティア観や活動における意義について理解を深めていった。２日目は、コミュニケーションを課題に子どもを対象にしたレクリエーションの指導方法を学んだり、グループに分かれて野外炊飯（ダッチオーブンを使用したピザ作り）を実施したりするなど、協働作業体験を通してグループの交流を深めていった。

ア　開講式・アイスブレイク

講師：企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

交流の家の設立目的や取り組んでいる事業等を説明し、参加者に当交流の家について理解を深めた。また、当交流の家職員によるアイスブレイクを行い、簡単なレクリエーションを通して参加者の緊張をほぐしていった。アイスブレイクの意味や目的などを具体的に説明し、参加者が実際に指導者の立場として取り組めるように指導者の視点を交えて講義を行った。参加者は熱心に取り組んでくれており全体的に終始和やかな雰囲気で過ごすことができていた。

イ　ボランティア体験講座①（知識編）

講師：西坂 淳氏

西坂氏が毎年実施している、１週間にわたり親元を離れて子どもたちが無人島でキャンプ体験をする事例を中心に体験活動の必要性について考えていった。長期間の自然体験活動と集

団生活を経て、子どもが変容していく様子を理解することができた。また、子どもとボランティアスタッフの関わり方や、集団生活の注意点、安全管理の設定など、具体的な実施事例を学ぶことができた。また、参加者も興味・関心を持って熱心に講義に耳を傾けていた。

ウ　ボランティア安全管理（技術編）（救命救急法）

講師：大洲地区広域消防事務組合消防署員・事業推進係（看護師）

普通救命救急法を中心に応急手当や救命救急に必要な知識・技術を学んだ。その後、講師の消防署員による東日本大震災での救助活動の様子などを紹介していただき、東日本大震災で被災した現地の状況や活動に関わる多くの方々の状況や災害ボランティアについて理解を深めることができた。

また、当交流の家職員による野外活動中における熱中症対策について学んだ。実際に水分補給時の塩分量を測定する等、具体的な医療用品を使用した処置方法を理解することができた。

エ　ボランティア体験講座②（仲間編）

講師：浅野 長武氏

浅野氏が取組んでいる海外青年受入のワークキャンプ活動（海外の青年をみかん農家の古民家に受入れ、農業体験を通して日本の生活文化等を学ぶワークキャンプ活動）の体験談を交えながら国際交流のボランティア活動について理解を深めることができた。海外の青年と交流を持つ機会が少ないため、青年がどのような活動をしているのか、参加者にとっては、大変興味深い内容であった。

オ　グループワーク（活用編）

講師：企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

子どもを対象にしたレクリエーションやグループワークゲームを実際に体験しながら、指導方法やプログラムの組み方を学んだ。レクリエーションを実施する際の安全管理をはじめ、プログラムを組む際の導入・展開・まとめの流れやレクリエーションのつなぎ方について理解を深めることができた。

カ　野外炊飯体験　ピザ作り（体験編）

講師：企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

グループに分かれて、ダッチオーブンを使用したピザ作りを実施した。グループで食事作りを通して協働作業をしていくことで、お互いの信頼関係を築くことができた。また、ダッチオーブンの使用法を学び、野外料理に対する関心を高め、野外活動（料理）で起こりうる事故や怪我などの安全面について理解を深めることができた。

キ　ふりかえり

講師：企画指導専門職・事業推進係

２日間の事業を通して気付いたことや心に残ったことを１文字に表してもらい、その文字から感じた２日間の思いを発表してもらった。今回の講座をきっかけにボランティアを始めたいと思って来た参加者や普段からボランティア活動に取組んでいる参加者など、それぞれの背景が異なっていてもボランティア活動の意義について改めて見つめ直す事ができていた。また、ボランティアに対する興味関心がこの二日間を通して深まっていったようであった。

(3)　参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

＊満足：83.3%　　＊やや満足：16.7%　　＊やや不満：0.0%　　＊不満：0.0%

○　とても有意義だったので、これからも続けてもらいたいです。

○　ボランティアについてよく分かりました。

○　小人数で家族的に出来て、アットホームでよかったです。又、次回も会えたらいいですね。

(4)　成果・課題

当事業は、今年で６回目の開催である。今回の事業実施にあたり、昨年度の参加者や各学校の担当者より意見を伺い、実施時期等を選定して開催した。しかし、高校生の生活環境の変化、また求められている役割、学校での行事日程やカリキュラム等、高校生を取り巻く環境が以前にも増して多様化しており、今回の事業では昨年に比べて参加者が大きく減少した。

減少した主な要因としては、テスト学習期間や学校行事等を考慮して日程を設定していたが、各学校の行事等と広報時期が重なり学校の協力がうまく得られなかったことが考えられる。そのため、次年度以降の開催にあたっては、広報活動をできる限り学校の負担にならないようにする配慮が必要であると考える。チラシやポスターの掲示等も、生徒１人１人に配布できる体制（以前はクラスに２部ずつなどの対応であった）を取り、学校側がチラシを増刷するような手間や作業がないように、予め準備できる資料は当交流の家で用意しておく必要があると考える。

近年、進学や就職において求められる要素の一つとしてコミュニケーション能力や人間性を評価する傾向が続いており、高等学校でもボランティア活動や課外活動につながる事業のニーズは非常に高い。その反面、主体者である高校生の参加については、課外活動や部活動、進学における授業カリキュラムの履修が多く、校外で開催される事業には自らが進んで参加する者は非常に少ない。その中で、学校側のフォローやサポートとなるきっかけづくりがなければ参加することが難しいが、学校側の負担等も考慮して事業参加に結びつけることが必要である。

今後の事業については、学校や生徒の現状や実態を考慮し、ボランティア活動などの体験的な活動機会をできるだけ提供することが大切である。

つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol.２

(1)　日　　程

□７月２１日（土）

10:00 10:15 11:00 12:30 13:30 15:00 16:30 17:00 18:30 20:00 22:00

受付	開講式 アイスブレイク	ボランティアは何が学べる？	昼食	ボランティア活動のいろいろを学ぼう	企画を考えよう （施設探検）	オリエンテーション	つどい・夕食	企画を作る case by case から考える	入浴 グループタイム	就寝

０□７月２２日（日）

6:30 9:00 12:00 13:00 15:00 15:30

朝食 つどい 起床	企画を夢紙芝居にしてみよう	昼食	なんでボランティア？	閉講式	解散

(2)　活動内容

【概　要】

「つながる！はじまる！ボランティア体験講座Vol.２」として、前回の「つながる！はじまる！ボランティア体験講座Vol.１」に引き続いた形で講座を行った。

開講式の後、参加者同士の緊張をほぐし交流できるようにとアイスブレイクを行い、その後、講師によるボランティアの基礎的な知識や活動時の心構えを学び、ボランティアの理解を深めていった。

今回の事業は、１０月に開催される青少年交流の家フェスティバルに向けたボランティア企画をグループで考え、実際に運営するような流れで計画した。グループに分かれて企画の内容を考えるため、それぞれのグループでの役割作りやコミュニケーションを高め合えるように、グループ作りの段階からコミュニケーション中心のレクリエーションを実施した。

２日間にかけてイベントの企画から発表を行い、お互いの価値観を分かち合い、今後のイベント実施に向けてボランティア活動の意識を高めることができた。

ア　開講式・アイスブレイク

講師：企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

当事業の目的等を説明し参加者に当交流の家について理解を深めてもらった。また、参加者の緊張をほぐすための簡単なアイスブレイクを行った後、グループ活動を行うために、グループ作りにつながるレクリエーションを行った。参加者は熱心に取り組み、全体的に終始和やかな雰囲気で過ごすことができた。

イ　ボランティアは何が学べる？

講師：稲葉 靖司氏

稲葉氏が担当する県内の高校生が所属するヤングボランティアセンターより、まち起こしの一事業である撮影ボランティアの事例を中心にボランティアの理解を深めていった。ボランティアの歴史やボランティア活動をする上で大切なことを学ぶことができた。日頃忘れがちな、なぜボランティアをするのかといった動機付けを意識することで、ボランティアから学べる要素が多いことが分かり、ボランティア活動の意義について理解することができた。

ウ　ボランティア活動のいろいろを学ぼう

講師：二上 雅史氏

まちづくりＮＰＯイケメン連が取り組んでいるボランティア活動の事例を中心にイベントのボランティアについて理解を深めていった。町おこしのボランティアとして、イベント企画が中心の活動であったが、その中で、自らが楽しいからこそやっていることを聞いて、ボランティア活動に必要な思いと心構えを知ることができた。イケメン連という団体のネーミングや実際の取組を知ることで、参加者である高校生や大学生にとってとても興味深い講義になった。また、質問の時間では多くの質問が飛び交っており、これからのイベント企画に向けて参考になった。

エ　企画を考えよう（施設探検）

講師：企画指導専門職・事業推進係・法人ボランティア

イベントを企画する上で必要な準備物や、施設の特徴を把握するために、グループに分かれて施設探検をおこなった。普段利用している法人ボランティアのメンバーがサポート役になり、研修室や施設の使い方のアドバイスを行った。初めて当交流の家に訪れた者もおり、施設探検はイベントを企画する上での材料としてとても参考になった。

オ　企画を作るcase by caseから考える

講師：前田 眞氏

１０月に開催する青少年交流の家フェスティバルのボランティア企画に向けて５つのグループに分かれて企画作りを行った。

はじめに、企画作りを始める際の心構えや手法について前田氏より説明があり、ブレーンストーミングやＫＪ法などを学んだ。また、昨年度のフェスティバルの様子を確認しながら、昨年度の良い点や改善点を調べた。その後、各グループに分かれて企画作りを行い、模造紙に内容を書き留めていった。青少年交流の家フェスティバルのイベントのイメージがなかなか浮かびにくいグループもあり、企画作りに難航しているところもあったが、グループで出た意見をお互いにフォローし合いながらまとめることができていた。

カ　企画を夢紙芝居にしてみよう

講師：前田 眞氏

模造紙に書き留めた意見を一つのスケッチブックにまとめて、紙芝居形式で企画発表の準備を行った。

発表する要点を押さえながら、どのように発表するかをグループで話し合い、グループによっては相手に伝わりやすいように紙芝居に工夫を凝らしているところもあった。

その後、グループ毎に企画の発表を行った。紙芝居として発表することで、実際の動きや会場の様子をイメージすることにもつながり、当日のフェスティバルをイメージした来所者に喜ばれる企画が作り上げられていた。

短時間で制作したこともあり、予定していた時間内に完成できないグループもあったが、それぞれのグループが協力して一つの紙芝居にまとめることができ、グループ一体となって取り組むことができた。

課題として、人前で意見を主張することに慣れていない参加者が多く、良い企画が作られていても発表の仕方によっては、十分に発表内容が伝わっていない様子が見られた。そこで、自分たちで考えた企画を発表する際には、発表をする姿勢や声の大きさ、目線などの意識や練習をあらかじめプログラムの時間の中に入れておくことが必要であると考える。

キ　なんでボランティア？

２日間の事業を通して気付いたことを発表し合い、参加者全員でそれぞれの思いを分かち合った。

参加者より「ボランティアは無償の行為でお手伝いするだけではなく、活動を通して自分自身の学びにつながることを知りました」といった意見が挙げられるなど、ボランティアに対する意識や考えが、今回の事業を通して変化した者もいた。また、今回考えた企画を実際に青少年交流の家フェスティバルで実施するため、当日に向けた思いの中で前向きな意見も多く、参加者の今後の活躍が楽しみな時間となった。

(3)　参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

＊満足：60.9%　　＊やや満足：39.1%　　＊やや不満：0.0%　　＊不満：0.0%

○　みんなで協力して一つのイベントを考えたのがすごくよかった。仲良くなりました。
○　いろんな人と関わることができてよかったです。
○　もう少し関わること、作ったりすることを増やしたらいいと思いました。

(4)　成果・課題

当事業は６月に引き続き２回目の事業開催であった。

１回目は企画体験としてイベント企画のための体験を行い、２回目は実際に自分たちで青少年交流の家フェスティバルの企画作りを行う内容で実施した。実際に２回目に参加した者については、当青少年交流の家のフェスティバルで親子に向けて考えた企画を実施する時間も設けており、今後も継続して参加してもらいたい。

また、今回も昨年度に引き続き、大学の授業単位カリキュラムの一環として社会教育分野に関心のある学生が多く集まった。昨年度の課題として、ボランティア体験講座のみの参加者が多く、実際に企画したイベントを実施できなかった。そこで今年度は、継続して青少年交流の家フェスティバルに向けた企画に参加できるように大学と連携して設定した。今年度はイベント企画から実施までの継続した流れを多くの者が体験できるようになっており、よりボランティア活動の意義を理解してもらえるようになった。

今後の展望として、大学の授業単位カリキュラムにボランティア活動が導入されてきている現状から、より多くの大学生に対してボランティア活動を推進する動きが高まっており、今後も大学と連携した形で、広く一般にボランティアの理解を深め、様々な場面で活躍するきっかけを提供することが重要であると考える。また、大学の授業単位カリキュラムを中心に提携した大学においては、時期などの日程調整を行い、継続した関係性の維持に務めて、幅広くボランティア活動について考えてもらいたい。さらに、ボランティアリーダーとなって主体的に行動できる態度を身につけて活躍する者を輩出していけるような機会を提供していきたい。

<u>青少年交流の家フェスティバル</u>

(1)　準備

「つながる！はじまる！ボランティア体験講座 Vol.２」に参加し、法人ボランティアとして登録した者が中心となり、提案された企画をもとに実施した。

ボランティア企画の実施にあたり、企画運営をしていく上で事前の準備打ち合わせ等の時間を設けてきたが、参加者の多くが大学の授業実習等で集まる機会がなく、当日の準備で実施できる内容に変更した。法人ボランティアとして登録し、継続して事前準備まで関わるためには、体験講座においてイベントを企画した段階で役割分担を決めておくなど、各自の意識を高めながら準備に臨むことが必要だと考える。

(2)　ボランティアの声

○　問題になりそうなことをあらかじめ考えておくことが大事だと思いました。
○　じっくり話し合いや試しに実践することが大事だと感じました。

(3)　成果・課題

ボランティア企画の実施にあたっては、今年度「つながる！はじまる！ボランティア体験講座」に参加し、法人ボランティアとして登録した大学生と以前から活躍している法人ボランティアが中心となって活動を行った。企画実施に向けた事前準備においては日程調整ができなかったため、当日のみのボランティアスタッフとして参加してもらった。ボランティアスタッフとして来所者と接する中で、来所者に対する配慮や企画実施における変更に柔軟に対応するなど、イベント企画の良さや難しさを体験することができた。

青少年交流の家フェスティバル実施後の感想では、事前準備の大切さやボランティアスタッフ同士のコミュニケーション、打ち合わせの重要性に気付いた者もおり、企画を実施する上で、視野を広く、先のことを見据えた形で考えていくことを意識した意見も出ていた。

今後もボランティア体験を通して、主体的に行動できる態度を身に付けて欲しい。これからも法人ボランティアとしての活躍を期待したい。